

第 105 回

火山噴火予知連絡会資料

2006年 11 月 14 日

東北大学大学院理学研究科

2001年ころから継続している傾斜・歪
変動傾向が、今期も続いている。

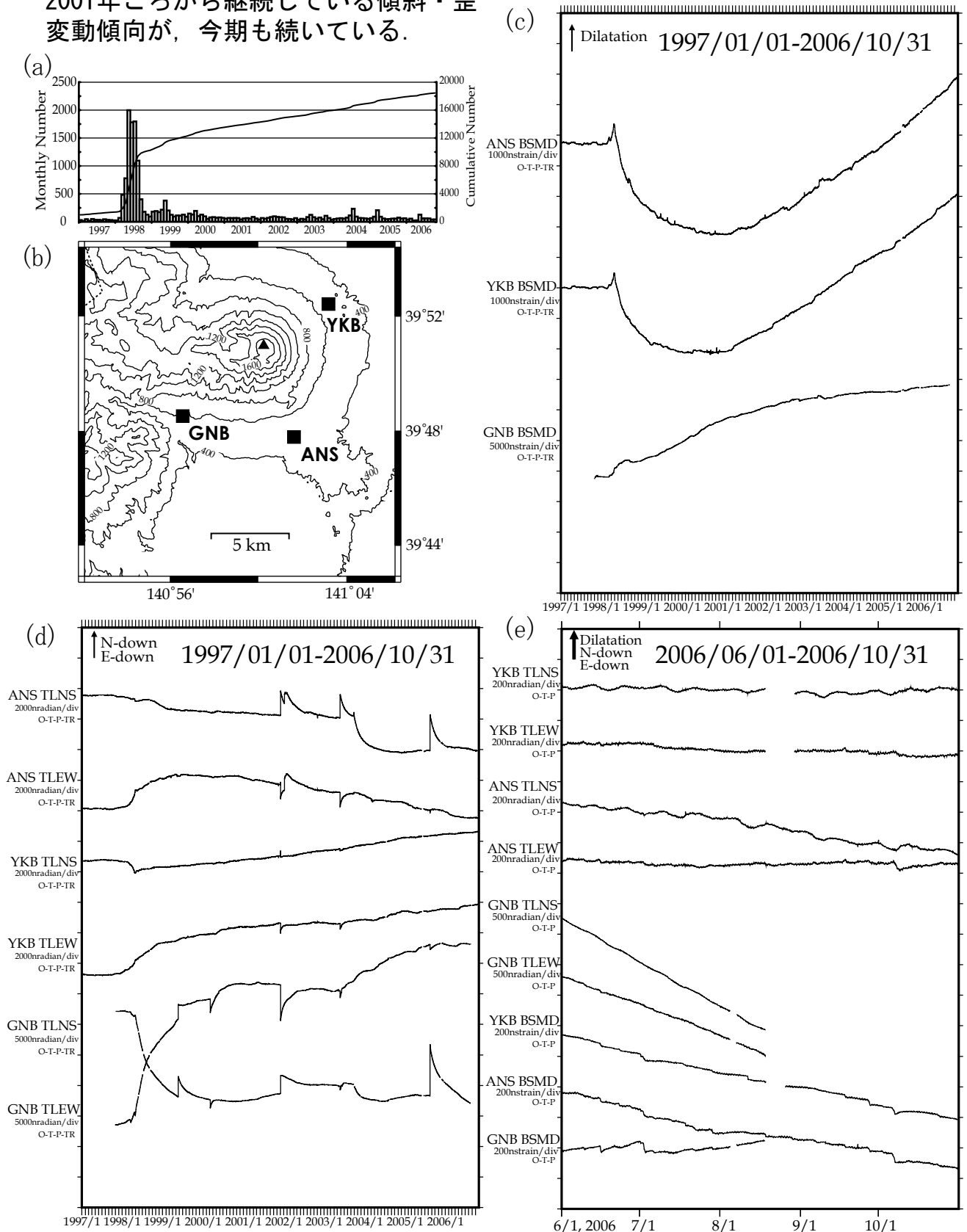


図 1. 岩手山周辺における歪・傾斜変動記録。(a) 月別地震数の変化(1997年4月～2006年10月), (b) 観測点配置, (c) 1997年1月1日～2006年10月31日における歪変動, (d) 傾斜変動, (e) 2006年6月1日～2006年10月31日の歪・傾斜変動。BSMD: 体積歪, TLNS: 傾斜南北成分, TLEW: 傾斜東西成分。(c), (d)は潮汐・気圧・トレンド補正済。(e)は潮汐・気圧のみ補正済。トビをともなう変動は有感地震の影響。

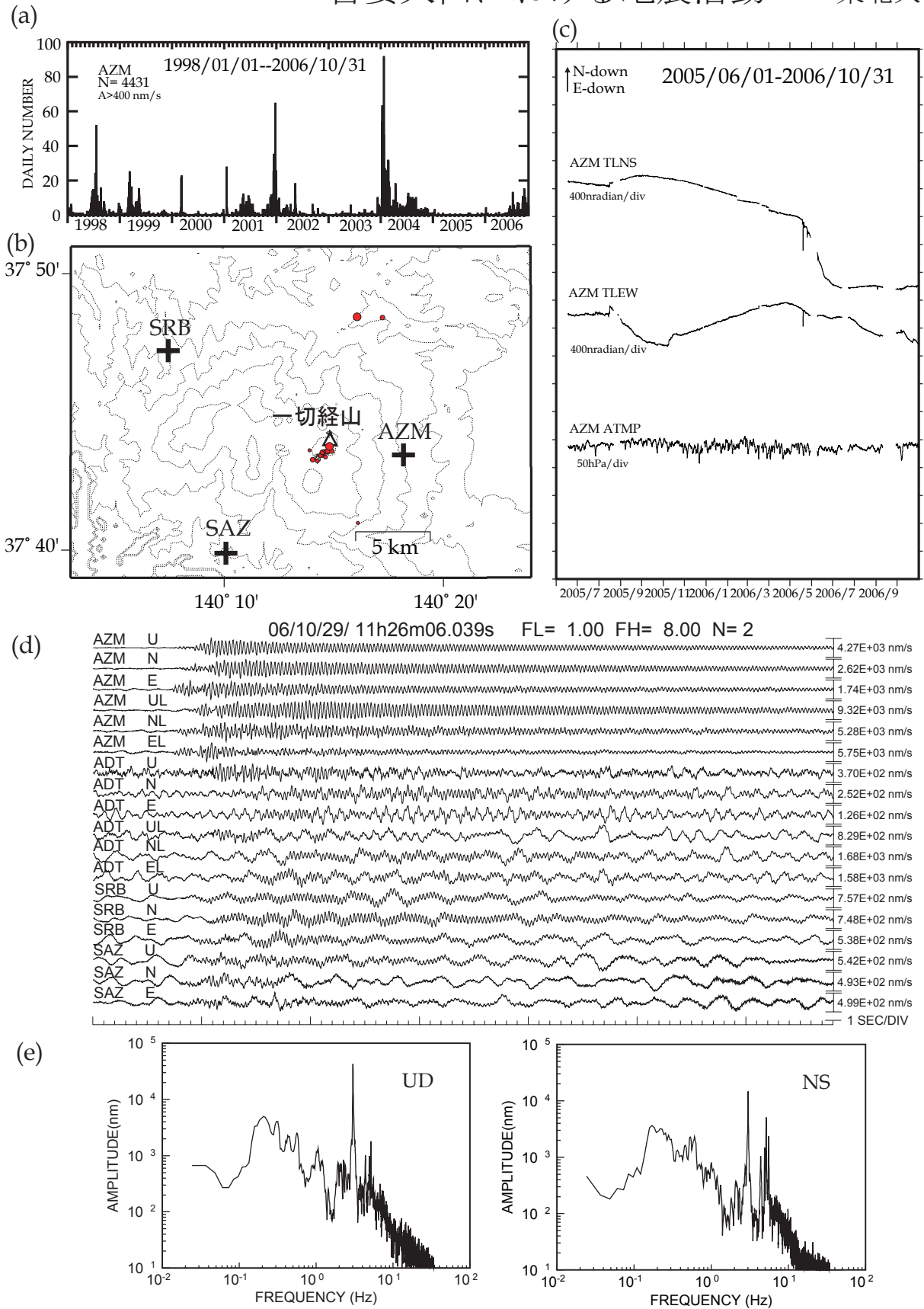


図 1. (a) 吾妻火山地域の日別地震数の変化(1998年1月1日~2006年10月31日), 2006年7月頃から地震活動がやや活発化している, (b) 2006年7月1日~10月31日の震央分布, (c) 吾妻火山観測点(AZM)における傾斜変動(2005年6月1日~2006年10月31日), (d) 2006年10月29日11時26分の長尾地震の記録と(e)スペクトル. (c)の傾斜記録において, TLNS : NS成分, TLEW : EW成分, ATMP : 気圧.